



平成 29 年度 海田中学校区小中連携通信 No. 2
海田南小学校

6月29日(木) 授業研究・研究協議会

1. はじめに

広島大学大学院教育学研究科教授の難波博孝先生を今年度も講師としてお迎えして、第2回の21世紀型能力育成事業(以下、海中校区21)授業研究会を行いました。

平成30年度より「課題発見・解決学習」が全県展開になります。今年度中に、「課題発見・解決学習」の単元構想を行い、年間指導計画へ位置付けることが求められています。海田中学校区においては、すでにたくさんの「課題発見・解決学習」の単元開発が進められています。今年度は、新たな単元開発だけでなく、既存の単元をブラッシュアップすることも求められています。「主体的に学ぶ」児童・生徒の育成を目指し、日々の授業改善を進めていきましょう。

2. 研究授業

〈単元名〉みんなで作ろう!安芸クリーンセンター新聞「みんなで新聞を作ろう」(国語科)

〈授業者〉4学年2組 担任 清水 葉月 教諭

〈単元で付けたい力〉①調べたことを整理して、取り上げたい内容を選択し、割付をすることができる。

②読み手に伝えたいことを明確にし、取材したことを紹介する記事を書くことができる。

〈言語活動〉安芸クリーンセンターを見学して分かったことを紹介する新聞を作成する。

〈本時の目標〉教材文をもとに、読む人に分かりやすい記事の書き方について考え、分量に合った文字数で記事を書くことができる。

社会科の学習「住みよいくらしをつくる〜ごみの始末とその利用」での安芸クリーンセンターの見学をもとに、分かったことを新聞に表し、家族や他学年に伝えることをゴールとした授業でした。国語科「みんなで新聞を作ろう」の学習で、新聞の特徴を捉えたり、読む人に分かりやすい記事の書き方や工夫を知ったりした後、学習したことを生かして、実際に自分達で新聞を作ります。相手意識や目的意識が明確になっている点はよかったです、「書くこと」の単元構成においては課題がたくさんあり、参観者にとっても大変勉強になる授業でした。見学して分かったことだけでなく、子ども達の驚きや働く人々の苦労などがしっかりと伝わるような新聞が完成するのが楽しみです。



3. 研究協議会

協議の柱:「深い学び」につながる教師の発問や支援のあり方は適切であったか。

(1) グループ協議会

上述の協議の柱をもとに、グループ協議で出された課題をいくつか紹介します。

- ・教科書の教材文が適切であったのかどうか。教材文でポイントを確認させるのであれば、見学新聞の記事の書き方にあったものを提示する方がよい。
- ・伝えたいことを明確にもたせる(必然性)必要がある。「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」(リード文)を書かせる必要もある。
- ・いいモデル文とダメなモデル文を提示することにより、ポイントに気付かせる方法もある。



(2) 指導講話(広島大学大学院教育学研究科教授 難波 博孝 様)

- ・「書くこと」の授業は、書く前が勝負!!学習指導要領解説国語編「書くこと」の指導事項の順で単元構成を組む。推敲は節目ごとに行うとよい。

① 相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べる。

(材料集め・メモや付箋に書く)

② 段落構成を考える。(右図参照)

③ 右の一から三に付箋を整理して貼る。

④ 二の中の付箋の順番を考える。

(中心となることを一番前に「くわしい内容や理由等」)

⑤ 実際に書く。

- ・ペアトークは、自分の思考を広げるものであるから、自由に、自然に行うことがポイント。グループトークは、司会を立てて、手順を示して行う。



三	二	一
自分の思いや考え	理由や事例を挙げて 目的や必要に応じて 持たせて	くわしい内容 段落意識をしっかりと
		いつ・どこで・だれ り リード文(まつく)

4. 終わりに

- ・文を書けないのは児童の責任ではなく、書くことの手順を指導していない教師の責任だと反省しました。学習指導要領をきちんと読んで授業の組み立てを考えることが大切だと改めて思いました。
 - ・「ペアトークは自由に、グループトークは司会を立てて」が印象に残りました。型にこだわる必要はないんだなと思いました。
- 【参加者の感想一部抜粋】

授業において、付けたい力を明確にし、ねらいを達成するためには、どのような活動を仕組んでいくのかを考えることが大切です。その基本となるのは、学習指導要領です。学習指導要領をしっかりと理解して、日々の授業づくり及び授業改善に取り組んでいきましょう。